

---

# 厨二病少女物語 in,めだかボックス

箱眼鏡

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

厨二病少女物語 in めだかボックス

### 【Zコード】

N6078Z

### 【作者名】

箱眼鏡

### 【あらすじ】

とある厨二病少女が神に出会い（？）  
スキルを貰つて原作ブレイク。傍観するお話！

♪ルルルーブ　魔少女、召び出せ。(漫畫モード)

連載、始めました。

♪ハハハ〜〜 嘘!少女、呼び出せ。

やあやあやあ〜 はじめまして! Miss・嘘! 〜。

『 ちやんですか

…え? 名前が表示されてない?

……気にすんな。気にしたら負け! 〜。

で、本題に入るが…なんか私、真っ白いことにいるんだよねえ?

うん… 何でこいつなったんだか?

とつあえず、回想!

わ〜、それは私がとある怪しい古本屋『 BOKOBO 』で…

『キツネザルでも出来るー正しい神様の呼び方（初版）』

を買った事から始まつた…買つ時 可哀想な人を見る目で見られたが。

でだ、家に帰つてその本を見たんだが…

由井

「よし、メガネ装備完了！ 熟読するぜーー！」

とか言つて本を読み始めたんだよ

まあ、当然の如く『神様の正しい呼び方』があつて  
試にやつたんだよね、手順通りに。

「えー… つとお？

『付属の魔方陣の描かれている蠅燭を六角形にならべ、その中心に  
立ち、

「いですよー」と言つてから「ぐあ~せよ~れ~た~おふじこ~」を  
囁きながら10回囁く』

…ぐわ…！ やつてやわいじやねエか…！」

で、やつたんだよね。

そしたらわ…

「いですよー

く	あ	く	あ	く	あ	く	あ	く	あ
w	せ	d	r	f	t	g	y	ふ	じ
せ	d	r	r	f	t	g	y	ふ	じ
d	r	r	f	t	t	g	y	ふ	じ
r	f	t	g	y	g	y	ふ	じ	1
g	y	g	y	g	y	g	y	ふ	じ
y	ふ	y	ふ	y	ふ	y	ふ	じ	1
ふ	じ	ふ	じ	ふ	じ	ふ	じ	じ	1
じ	1	じ	1	じ	1	じ	1	じ	1
1	p	1	p	1	p	1	p	1	p

…出来たんだよ。出来ちゃつたんだよ。すうぐね？

んで、魔方陣が光ったと思ったら、  
ここに居たわけさ。

「お前が俺を呼んだんだろ?」

とか言ってる奴いるし~

... 30N?

そう思い、後ろを見たら

ものすごい美形な奴がいた。

畜生っ！

「誰だツツ――――！」

「神だツツ――――！」

「知らんがな――――って神――――？」

「そうだよ―――― 1時間位前からいたよ！  
お前がいつまでたつても現実逃避してるからかなり寂しかったよ――――！」

「知らん。どうでもいい

「どうでも――――」

ていうか神イケメンだなオイ――――  
まあいいか。私の願いが先だつ！

「で？ 神（笑）さんよお――――ていうか何時まで落ち込んでんだよ。  
鬱陶しいわ」

「誰のせいだ――――で――――本題に入るけど、お前の願いは転生だよな？  
つーか此処に生きたまま来る奴って中々いねえよ」

「オイ、ちょっと待て――――！」

「ん？ 何だよ」

「今、お前…生きたままつったよな？」

つー事はアレか、ここに来る奴は大抵死んでんのか?」

「…………まあ……な……?」

「今のは何だあ? オイ「カラ神(笑)さんよ  
「セーーー! セーーー! セーーー!」

汗だらつだらやんけ…

「…まさかとは思ひけど、その死んだ奴って…お前のミスで死ん  
だりとかか?」

「…」

「おお、ビクッてしたつ

「…ふうーん、へえーえ? そつかあ、そつなんだあ? 『

「つ、つるさい! 僕だつて、僕だつて!!スくらにするつーの…」

シンデレ…? では無いな。確實!。

「で、此処に来た奴は身元確認をしなきゃなんないから…」

「間違つて死んだとかそういう事で?」

「そう! 私は確信犯!」

「グサツ… そうだよ…」

「自分で…」

「ゴホン、気を取り直して…名前は？ちなみに俺は菊だ」

「女子か。私は『』な

神が分厚い本を見始めた。重くねえの？

「……お、本人だな。OK OK  
で、お前の願いは転せ 「違えよ」 は？」

「私の願いは… 「ちよつと待てよー」 ンだよ駄神」

「駄神…じゃなくて！ お前の願いは転生のはずだろー！？」

「情報古いな… あんな？ 私はある時、気づいたんだよ」

「何に」

「『『あれつ？ 転生しちゃつたらいろんな世界行けなくね？…』…といつ事』』。」

「はああああああ？！」

「つー訳で、今の私の願いは

『ありゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』をくれ。

「

「カーッ—————」

「うぬせーなーー私はあらゆる事を楽しみたいんだーーいだらーーー」

「ハハハハ……俺つても、お前に呼び出されただらーーー」

「おーなんだいきなう」

「俺達には決まりがあつて…

『呼び出された神は 呼び出した者の願いを絶対叶えなければいけない』

… って言つのがある… から

「叶えてくれんのか?」

「…まあ…でも、お前の願いって、全時空を行き来するって言つ事なんだよ」

めんじくせえ言つ回しあがつて。めんじくせえ奴だな。

「 = 叶えられるかなあ… みたいな事か」

「うん…とこいつ事で、ちょっと大神様に相談してくるわ

「…何か納得いかねーけど…いいよ」

「おーへ、ちよつと待つててく…『その必要はない』…」

「んあ？」

『誰だよ… 美人さんキター… 何で神つて美形多いの？ そんなこと思つてると、神（美人）さんが口を開いた

菊、テメエ何モタモタしてやがる。おお？』

『口悪…』

ビックリだよ… 何…めつちや 口悪に神さんキタ…！ 口悪過ぎて突つ込んでしまつたよ…もう…

「す、すみません…」

「めつちや 口悪…んじやん、チキンハートだなーお前

「う、うるせえ…」

『オイゴラ、テメエアタシの話聞いてたか？ ん？』

「聞いてました」めんなさい

「弱いなお前…」

『！ お前がこの阿呆を呼び出した人間か』

「セリッス

『ほおーん… お前の願いはー… 何だっけ？  
あらゆる世界に行けるスキル… と、スキルを作るスキル… だった  
か？』

「え、何で知ってるんですか？！」

駄神」とお菊ちゃん（笑）が喋りだす。

『お菊ちゃん（笑）… テメエが持つてつたのはコレの一個前のだ  
(笑)』

「お菊ちゃん…？」

「お菊ちゃん、案外ドジっ子なんだな（笑）」

『で、お前』

「へあはいー？」

いきなり呼ばれて変な返事しちゃったよ…

『お前の願い、叶えるからな』

一瞬の沈黙。そして…

「「…はあつ！…？」

叫んだ。

だつてビックリしちゃつたんだもんつ

『ん？ なんだ嫌なのか？』

「物凄く嬉し過ぎて吐きついです」

『ははは… そうか…』

「ちよつと…！ 大神様…？ いいんですか…？」

『いいくつってんだろう？ お菊ちゃん（笑）』

『やうだよ。お菊ちゃん（笑）』

「う…もういいや…ハハッ…」

お菊ちゃん（笑）が落ち込み始めた。邪魔くせえな。

「つーか、マジでいいんスか？」

『いいんだよ別に。お前気に入つたし』

『よつしゃあああああああああああああああああああああああ…』

『落ひ着け！？』

「「あつ、スンマセン…つー」「

『いや、いいんだがな…  
で、『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』  
はもう使えるからな』

「「この間に…」「

あ、お菊ちゃん復活した。はええな…神クオリティーかこの野郎  
『企業秘密だ。…お、もうそろそろ時間だ。』

「あ、本当ですね」

「？ 時間が何だよ

『ん？ お前を下に戻す時間』

「あ

そーいや忘れてたな…

『会うのは最後になるかもしれないから、アタシの名前を教えてお  
く。』

アタシの名前は紀樹だ』

「紀樹さん…オーッス！ 覚えました」

『お菊ひやーん？ テメヒはいいのかー？』

「あんまつ血づ事ないですし…」

「ンだよ冷たいなー、お菊ひやん」

「お菊ひやんはやめてくれつ…」

「嫌でーす（笑）」

『じや、戻すぞー』

『愁傷様…』

「は？」

「何？ 『愁傷様？』

『えいつ』

パカツ

「あ、？ パカツ…ヒツキキキキキキキキキキキキキ…」

…その音がした瞬間、下に『テケヒ穴』が開いた。

『んじゃな～～』

「じゃあなー！死ぬなよー！」

そして、私の意識は無くなつた。

」  
：  
h  
—  
：  
？

……知つてゐる天井だ……  
当たり前か

あんの野郎共落としやがつて

私は根に持つタイプなんだぞこの野郎。

ヒラ

「あん?  
ンだこれ...」

手紙か……？ つか上から落ちて来たよな

…上、天井…うわあ、物凄い無理矢理…

「ええー…と、何々…

『おはや〇ほー！』

うた りか。地味にネタ使つてくるんじゃねえよ駄神共が。

『ういーっす！ 生きてるかー？』

生きてるわ！！ もう突つ込むのやめとこう。先に進まねえ

『ははは、言い忘れてた事があつたから手紙で教えるぞ。

まず、スキルの事。

スキルは現実では使えないからな。

あらゆる世界に行けるスキルの名前は

『ブックワールド』つつい奴に決定したから。

ブックワールドはその世界に行く時に

「ブックワールド！」 つて言えば行けるから

でもう一つの方は『スキルメーカー』。まんまだな（笑）

あと、原作はぶち壊しても、傍観でも何でもいい。

そつちの世界の漫画にや影響しないから。

他になんかあつたっけ…？ 無理だ思い出せない。

まあこれでいいか。

以上。

from 紀樹『

ぐつだぐだだな……』

ぐだぐだ……ぐだぐだ過ぎだよ！？

馬鹿じやねえの！？ 他になんかあつたけ……？ て……！

あきらめんなよ……もうつ……

「まあいいや

」の世界に行くかはもう決まってんだよね

やっぱ最初は

「めだかボックスだろ……うあああ鷗くん可愛い可愛い……」  
といふ事で！レツシ……ブックワールド……

そして私の原作ブレイクが始まった。

原作傍観するかもしれないけどね。

ぱるるーぐ 厄一少女、呼び出す。（後書き）

はい、無理矢理です。

詰め込みすぎました。切り方が分かりません。

アドバイスください..

頑張つて連載します。それでは　by 箱眼鏡

## 厨二主人公設定だッ！！

現実

名前：不明

性別：女

年齢：13

身長：162.8cm

体重：「ご「言わせるかつー！」」 ^ ^

一人称：（基本）私（たまに）あたし・俺・僕

誕生日：不明

性格：言葉で表せない性格、厨二病

容姿：普通の人

in めだかボックス（容姿はスキルで変えている）

名前：河那 九十九  
カワナ ツクモ

性別：女

年齢：黒神めだかと同一年

身長：165.5cm

体重：不明

一人称：（基本）私（たまに）あたし・俺・僕

誕生日：不明

性格：言葉で表せない性格、厨二病

容姿：肩くらいのショートカットで天パ  
カチューシャ・黒をいつもつけている

神さん設定：

名前：菊（お菊ちゃん）

性別：男

年齢：不明

身長：169.5cm

体重：不明

一人称：俺

誕生日：4/4

性格：「さあ？ しらか「チキンだ」違つて！」

容姿：美形。九十九さん曰く、可愛くもあり格好良くもある

名前：紀樹

性別：女

年齢：不明

身長：175.8cm

体重：不明

一人称：アタシ

誕生日：12/25

性格：適當

容姿：九十九さん曰く綺麗

以上！

**厨二主人公設定だッ！！（後書き）**

設定です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6078z/>

---

厨二病少女物語 in,めだかボックス

2011年12月20日12時51分発行